（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成３１年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目） | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 名　前 | MIR SAYED SHAH DANISH | 所　属 | 研究推進機構　戦略的研究プロジェクトセンター | 職　名 | 特命助教 |

| 領域 | 業務ウェイト比（予定） | 平成３１年度　年度目標設定 | 業務ウェイト比（実績） | 平成３１年度　年度末自己点検結果 |
|---|---|---|---|---|
| 教育・学生支援 | 0.10 | 関連する研究グループの研究室学生と研究のディスカッションを行う。また、外国人留学生の就職や進学に関して助言を行う。 | 0.10 | In 2019, I have ave been supported 5 abroad applicants and researchers at their research proposal preparation, filling out the applications, and application process for enrollment to University of the Ryukyus as scholarship and non-scholarship students. |
| 研究 | 0.70 | 学術論文誌へ論文を投稿すると共に、国際会議で研究成果を発表する。 | 0.70 | *Published Journal Articles in 2019 (JFY):*<br>[1]**Danish, M. S. S.**, Senjyu, T., Zaheb, H., Sabory, N. R., Ibrahimi, A. M., & Matayoshi, H. (2019). A novel transdisciplinary paradigm for municipal solid waste to energy. Journal of Cleaner Production, 233, 880-892.<br>[2]**Danish, M. S. S.**, Senjyu, T., Ibrahimi, A. M., Ahmadi, M., & Howlader, A. M. (2019). A managed framework for energy-efficient building. Journal of Building Engineering, 21, 120-128. https://doi.org/10.1016/j.jobe.2018.10.013<br>[3]**Danish, M. S. S.**, Senjyu, T., Danish, S. M. S., Sabory, N. R., K, N., & Mandal, P. (2019). A Recap of Voltage Stability Indices in the Past Three Decades. Energies, 12(8), 1544. https://doi.org/10.3390/en12081544<br>[4]**Danish, M. S. S.**, Senjyu, T., Funabashia, T., Ahmadi, M., Ibrahimi, A. M., Ohta, R., Rashid Howlader, H. O., Zaheb, H., Sabory, N. R., & Sediqi, M. M. (2019). A sustainable microgrid: A sustainability and management-oriented approach. Energy Procedia, 159, 160-167. https://doi.org/10.1016/j.egypro.2018.12.045<br><br>*Published Conference Papers and Chapter Book in 2019 (JFY):*<br>[10]**Danish, M. S. S.**, Matayoshi, H., Howlader, H. O. R., Chakraborty, S., Mandal, P., & Senjyu, T. (2019). Microgrid Planning and Design: Resilience to Sustainability. Presented at the IEEE PES GTD Grand International Conference & Exposition Asia 2019, Bangkok, Thailand: IEEE.<br>[11]**Danish, M. S. S**., Zaheb, H., Sabory, N. R., Karimy, H., Faiq, A. B., Fedayi, H., & Senjyu, T. (2019). The Road Ahead for Municipal Solid Waste Management in the 21st Century: A Novel-standardized Simulated Paradigm. In 2019 3rd International Conference on Energy and Environmental Science (p. In press). Seoul, South Korea: IOP Conference Series: Earth and Environmental Science (EES).<br>[12]**Danish, M. S. S.**, & Senjyu, T. (2019). Green Building Efficiency and Sustainability Indicators. In Green Building Management and Smart Automation (1st ed., Vol. (In press), pp. 1-20). IGI Global.<br><br>*Best Paper Award:*<br>In the 3rd International Conference on Energy and Environmental Science (ICEES 2019), South Korea, I received the best paper award. |
| 社会貢献 | 0.10 | 本学の工学部と部局間学術交流協定を締結しているアフガニスタン国のカブール大学との学術交流を実施する。 | 0.10 | Under the signed academic exchange agreement, we hold the First Academic International Conference in Afghanistan within global standards by the technical support of University of the Ryukyus (https://sustainability-outreach.org/kabul/).<br>We worked on 8 joined research papers with Kabul University that will be published in May 2020.<br>Also, a book entitled: "Research Methodology in Practice: A Simplified Guide" is jointly drafted and expected to be published by July 2020.<br>Prepared, coordinated with Afghanistan-side and submitted the SATREP proposal to JST & JICA, but it was not successful. |
| 管理運営 | 0.10 | 工学部において部局間協力協定締結や外部資金獲得に対して助言を行う。 | 0.10 | In 2019, fortunately successfully my application for creating of an IEEE Professional Chapter was accepted (http://ieee.org/SEIES). That received 100,000 JPY research funds from IEEE (USA), as well as about 80,000 JPY from IET (UK).<br>Also, we have organized 3 On-Campus and Local academic events. |
| | 0.00 | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | | 1.00 | |

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

# 平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

| 名　前 | 武方　宏樹 | 所　属 | 研究推進機構 戦略的研究プロジェクトセンター | 職　名 | 特命助教 |
|---|---|---|---|---|---|

| 領域 | 業務ウェイト比（予定） | 平成31年度　年度目標設定 | 業務ウェイト比（実績） | 平成31年度　年度末自己点検結果 |
|---|---|---|---|---|
| 教育・学生支援 | 10 | PIの研究室に所属する学生と共同で研究を行う際、必要に応じて指導と助言を行う。<br>また、非常勤講師として、「生物学実験」と「生物学特殊講義B」を担当し、生物学の基礎的な知識に加え、自身の研究に関する最新の知見に関しても講義を行う。 | 10 | PIの研究室に所属する学生に対し、研究を通じて指導と助言を行った。特に、サンゴの産卵の生理機構を研究した学生には、研究のみならず卒論作成を通じて、科学論文の書き方やその発表方法等を指導した。さらに、新規の研究対象としてフジツボの研究を行う学生とともに、実験系を立ち上げた。<br>また、正式に担当した「生物学実験」と「生物学特殊講義B」に加え、PIが担当している授業科目、「比較内分泌学」と「生命の科学」の代理授業を計3回行った。 |
| 研究 | 85 | 学長リーダーシッププロジェクト「サンゴ礁生物の環境適応」について研究を進めるとともに、その一環として自身が研究代表者を務める科学研究費助成事業の研究課題「イシサンゴが産卵時期を決定する仕組みの生理学的解析」に従事する。得られた研究成果は国内外の学会や研究集会で発表し、国際誌への掲載の採択を目指す。<br>また、自身の所属する日本時間生物学会、日本動物学会、日本比較生理生化学会の学術大会にも積極的に参加する。 | 89 | 学長リーダーシッププロジェクト「サンゴ礁生物の環境適応」と、自身が研究代表者を務める科学研究費助成事業の研究課題「イシサンゴが産卵時期を決定する仕組みの生理学的解析」の研究に邁進した。特に、サンゴの産卵に関して著しい研究成果をあげ、発明審査委員会の承認を得て、特許申請を行うこととなった。当初の目的であった学会発表は、特許申請に伴い守秘義務が発生したため、断念することになった。魚類の研究成果に関して、共同研究者が日本動物学会において発表を行った。また、日本時間生物学会に参加し、評議員として優秀ポスター賞の選定に携わった。 |
| 社会貢献 | 5 | 具体的な予定はないが、学外での一般向けのアウトリーチ活動や産学連携の研究会、各種委員会への参画等の機会があれば積極的に参加する。 | 1 | 研究推進機構連絡会において、学内の職員に対し自身の研究プロジェクトを紹介した。 |
| 管理運営 | 0 | 学内の委員会に所属していない。 | 0 | |
| | 0 | | 0 | |
| 計 | 100 | | 100 | |

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

# 平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

| 名　前 | 佐藤　行人 | 所　属 | 研究推進機構　戦略的研究プロジェクトセンター | 職　名 | 特命講師 |
|---|---|---|---|---|---|

| 領域 | 業務ウェイト比（予定） | 平成31年度　年度目標設定 | 業務ウェイト比（実績） | 平成31年度　年度末自己点検結果 |
|---|---|---|---|---|
| 教育・学生支援 | 0.00 | ・所属する部局「戦略的研究プロジェクトセンター」で支援する学内の研究について、研究に携わる学生への研究教育を引き続き行う<br>・DNA実験およびデータ解析について、学生が基礎的な知識と技術を身に付けられるように教育指導を行う<br>・関係する学内の研究者に対しても、基礎知識や技術の伝達や指導を行う | 0.40 | ・所属する部局「戦略的研究プロジェクトセンター」で支援する学内の研究について、研究に携わる学生への研究教育を行った （合計8研究案件；農学部3件，熱生研2件，理学部2件，教育学部1件）<br>・DNA実験およびデータ解析について、上記の案件に関連して，学生が基礎的な知識と技術を身に付けられるよう教育指導を行った<br>・関係する学内外の研究者に、知識・技術の伝達や指導を行った （合計13研究案件；医学部2件，農学部3件，熱生研4件，理学部2件，教育学部2件） |
| 研究 | 0.00 | ・戦略的研究プロジェクトセンターが支援する学内研究について、成果の論文執筆、またはその支援・指導を引き続き行う<br>・沖縄の動植物に関する環境DNA研究を継続し、フィールドワーク、DNA実験と解析、論文執筆を行う。関連する研究者・学生への技術伝達・指導も行う | 0.50 | ・戦略的研究プロジェクトセンターが支援する学内研究について、成果の論文執筆や、その指導・支援を引き続き行った（当年度に発表した英文論文2本，英文紀要1本，投稿中の英文論文1本・和文論文1本，作成・指導中の英文論文2本）<br>・沖縄の動植物に関する環境DNA研究を継続し、フィールドワーク、DNA実験と解析、論文執筆を引き続き行った（発表した英文論文1本，英文紀要1本，投稿中の英文論文1本。関連する研究者・学生への技術伝達・指導も行った（合計5研究案件；医学部1件，農学部2件，熱生研1件，理学部1件） |
| 社会貢献 | 0.00 | ・社会貢献として、研究成果のアウトリーチ活動、すなわち、論文プレスリリースの積極的作成と公表や、その取材対応などを積極的に行う | 0.10 | ・社会貢献として、研究成果のアウトリーチ活動を行い，当年度に発表した2本の英文論文について，大学が発行する論文プレスリリースの作成とそれによる広報を行った（大学ホームページに2件掲載済み）．それらに伴う取材対応などを積極的に行った（八重山毎日新聞社1件，朝日新聞社1件，日経BP社1件） |
| 管理運営 | 0.00 | | 0.00 | |
| | 0.00 | | 0.00 | |
| 計 | 0.00 | | 1.00 | |

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

# 平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

| 名　前 | 富永千尋 | 所　属 | 研究推進機構　研究企画室 | 職　名 | 特命教授 |
|---|---|---|---|---|---|

| 領域 | 業務ウェイト比（予定） | 平成31年度　年度目標設定 | 業務ウェイト比（実績） | 平成31年度　年度末自己点検結果 |
|---|---|---|---|---|
| 教育・学生支援 | 0.00 | | 0.00 | |
| 研究 | 0.50 | ・沖縄県の研究ニーズを踏まえ、県、琉大及びその他大学、支援機関との連携による公募型研究プロジェクトを企画する。<br>・研究プロジェクトは研究推進機構と地域連携推進機構の連携を促進する企画内容とする。 | 0.80 | 海ごみに関する公募型研究に沖縄県と琉球大学で共同提案したが採択には至らなかった。海ごみ研究に関して、東京大学海洋学際教育プログラムの現地ワークショップ、東シナ海海洋水産国際ワークショップ学生セッションを理学部の教員と協力して企画・実施した他、プロジェクトイッカクの提案を支援した。<br>県の科学技術振興施策について、県担当課と研究企画室の勉強会を3回開催し、今後の科学技術振興施策を検討する「大学等関係機関ワーキンググループ会議」に繋げることができた。<br>戦略的研究プロジェクトのPIとして特命助教が実施する観光危機管理研究の支援を行うとともに、首里城再興緊急学術シンポジウムを担当し、学術ネットワーク構築に向けた実施計画を検討した。 |
| 社会貢献 | 0.25 | ・学内で取り組まれるSDGs活動と沖縄県のSDGsチームとの交流を図り、連携プロジェクトを検討する。 | 0.10 | 沖縄県振興審議会離島過疎地域振興部会、沖縄県地域振興協会事業調査委員会、沖縄科学技術振興センター研究推進委員会、宜野湾市委員会等の委員として参加し地域振興、産学官連携について助言した。<br>県のSGGs担当課との情報交換を行ったが、連携プロジェクト検討には至らなかった。 |
| 管理運営 | 0.25 | ・地域連携推進機構の定例会及びRCC会議に参加し、研究推進機構との連携促進及び県及び外部セクターとの連携について助言する。 | 0.10 | 沖縄県振興審議会に参加している琉大教員の部会間の情報共有を図るための会議を提案し、大学本部と連携し会議を支援した。 |
| | 0.00 | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | | 1.00 | |

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。